

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷●京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

NO.73
11月号

2011年11月15日発行



葛城神社曳山巡行



質美八幡宮曳ぎ山行事



下大久保野菜みこし



熊野神社田楽



【熊野神社大祭】

町内各地で行われた「秋祭り」。上乙見区にある熊野神社では、20年に一度の「大祭」が行われ、無形民俗文化財である熊野神社田楽をはじめ、クラシックコンサートや小畑万歳が奉納されました。

No.73 CONTENTS

- 2 京丹波町のシンボルは「つつじ」「イチョウ」「うぐいす」に決定
- 4 【特集】町長と語るつどい
- 11 ホークスベリー市から4人の留学生が来町 交換留学で深まる姉妹都市交流の『絆』
- 14 Dr's Message いきいき健康術
- 15 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2011
 - 保存会結成40周年を記念し、発祥の地「下山」で開催
 - DONと来い・丹波八坂公演
 - 地域活性化を目指した収穫体験イベント
 - 黒大豆枝豆の収穫祭
 - 体験活動を通じて「食」への知識を深める
 - 瑞穂中学校が農業体験
 - 和知小児童が京大の総合博物館を見学
 - パートナーズスクール事業を通じた継続的な交流活動
 - 慣れ親しんだ旧山保所に移転
 - のびのび児童クラブ2組
 - たわなに実ったカエルとまゆまるを刈り取り
 - 「あっぱれたんぼ」稲刈りイベント
 - 戦没者の冥福を祈り、恒久の平和を願う
 - 戦没者追悼式
 - 築城当時の姿がわかる曲輪や切岸などを確認
 - 三ノ宮東城跡発掘調査結果
 - 丹波くりをPR
 - 京都丹波くりまつり
 - 和知小学校チームが初参加
 - 和知地区親善バレーボール大会
 - 原子力事故への防災対策について協議
 - 防災会議と住民説明会
 - ポスターで伝える交通安全の大切さ
 - 交通安全啓発ポスターコンクール
 - 交流と親睦を深めるスポーツイベント
 - 身体障害者体育大会
 - 東日本大震災を教訓に消防活動の充実を目指す
 - 丹波地方消防連絡協議会
 - 都市と農村の交流を深めるボランティア活動
 - 快汗!猫の手援農隊
 - 季節の花でいっぱいの魅力ある地域を目指して
 - 北部振興会がシバザクラの苗を植栽

20 【まちの元気人】津田 武治さん



京丹波町のシンボルは「つつじ」「イチョウ」「うぐいす」に決定

京丹波町のシンボルとなる花・木・鳥は、地域のみなさんの思いや意見を反映するために広く公募し、京丹波町シンボル制定委員会(吉田昭委員長、以下「委員会」)での選考を経て、合併6周年目の記念日となる10月11日に制定。今回、制定に至るまでの経過や選考理由などを交えてお知らせします。

六回の会合を重ね京丹波町のシンボルを選定



選定結果をまとめた報告書を手渡す吉田委員長(役場町長室・蒲生)

シンボル制定にあたっては、制定目的である町民のみなさんの一体感醸成をはじめ、町への誇りと愛着を持つてもらうために、各種団体や一般公募の委員ら九人で組織する委員会を本年二月二十五日に設置。委員会では、広く公募することを決定し、選考を兼ねて六回の会合を重ねてシンボルを選定しました。そして、九月十四日には吉田委員長が寺尾町長に選定結果を報告。これを受け、町は選定結果に基づいてシンボルを決定し、九月二十二日に町議会全員協議会において報告した後、十月十一日に告示をして制定しました。

花・木・鳥に総数百四十一件が応募

花・木・鳥を募集した結果、応募総数百四十一件となり、委員会では「京丹波町の地域性やイメージにふさわしいもの」「京丹波町の自然環境になじみ深いもの」「町民に広く親しまれるもの」「今後の京丹波町のPRに有効に機能すると考えられるもの」などを制定方針として選考し、最終的に「つつじ」「イチョウ」「ウグイス」を選定しました。(詳細は「表1」と「委員会での選考経過」参照)

花	木	鳥
ツツジ 24	アカマツ 50	ウグイス 53
ササユリ 18	クリ 39	キジ 42
サザンカ 15	サクラ 8	シジュウカラ 7
サクラ 9	イチョウ 6	ツバメ 7
ヒマワリ 7	モミジ 6	メジロ 4
コブシ 5	ヒノキ 4	シラサギ 3
フジ 5	コブシ 4	トビ 3
ウメ 4	クヌギ 2	スズメ 2
スイセン 4		セキレイ 2
イワカガミ 3		ヒバリ 2
シダレザクラ 3		ヒヨドリ 2
タンポポ 3		フクロウ 2
ヒガンバナ 3		

※ほかに、応募数2件のものが9点、1件のものが13点ありました。

※ほかに、応募数1件のものが6点ありました。

【表1】シンボルの応募結果

町の鳥 うぐいす

町内に多く生息し、春を告げる「ホーホケキョ」のさえざりが多くの人々に親しまれていることから、京丹波町がいつまでも自然豊かな町であることの象徴として制定。



委員会での選考経過

135件・18種類の応募があり、第一次審査でウグイス、キジ、シジュウカラ、メジロの4種類に絞り込み、最終的に「うぐいす」を選定。

主な選定理由

- 子どもから高齢者まで、「ホーホケキョ」の鳴き声は知っており、親しまれている。
- よく耳にする鳴き声の鳥を、美しい自然のシンボルとしたい。



町の木 イチョウ

町内に名所が存在し、四季を通じて姿を変える美しさの中にやさしさと力強さを感じることから、京丹波町がまっすぐに長く栄える姿の象徴として制定。



委員会での選考経過

132件・21種類の応募があり、第一次審査でアカマツ、クリ、サクラ、イチョウ、モミジの5種類に絞り込んで検討。応募数はアカマツやクリが多かったが、これはマツタケ、クリの特産品からイメージした応募がほとんどであったため、木そのものをイメージした新しいシンボルとして「イチョウ」を選定。

主な選定理由

- 旧和知第2小学校、グリーンランドみずほ、須知高校など、旧町それぞれに名所がある。
- まっすぐで風水害などに強く、長く栄えるイメージがある。
- 旧町で制定がなく、新しいイメージとしてふさわしい。
- 府内市町村で制定がなく、独自性がありPRに有効である。

町の花 つつじ

多くの種類が町内を彩りなじみがあることや、一輪ずつではなく小さい花がまとまって咲くことから、京丹波町が助け合い、美しい町へ発展する象徴として制定。



委員会での選考経過

134件・35種類の応募があり、第一次審査でツツジ、ササユリ、サザンカ、サクラ、ヒマワリ、ウメ、イワカガミの7種類に絞り込み、検討を重ねる中で、最終的に「つつじ」を選定。

主な選定理由

- 庭や生垣をはじめ、街路樹、府立丹波自然運動公園など町内に多くの種類が咲き、なじみがある。
- 一輪ずつ咲く花ではなく、小さい花がまとまって咲く花であり、協力し合い、美しい町として発展するイメージとしてふさわしい。



町長と語るつどい

町民のみなさんとの対話を重視した取り組みである「町長と語るつどい」を、六月三十日―九月九日までの間、町内二十二会場で開催し、七百五十一人（表1参照）の方に参加いただきました。

つどいでは、平成二十三年度予算と主要事業について説明した後、参加されたみなさんと懇談形式でまちづくりについて意見を交わしました。今回のつどいの中でいただいたご意見や質問など、主なものをお伝えします。

■町長と語るつどい参加者数(表1)

会場名	開催日	参加者数(人)
丹波地区	竹野基幹集落センター	6月30日 47
	曾根公民館	7月 4日 36
	町中央公民館	7月 7日 40
	上野住民センター	7月11日 26
	健康管理センター	7月13日 41
	下山集会所	7月21日 52
	上豊田住民センター	7月22日 25
瑞穂地区	清涼館	7月25日 29
	富田公民館	8月19日 41
	山村開発センターみずほ	7月27日 42
	小野公民館	7月29日 22
	梅田振興センター	8月 1日 34
	鎌谷奥公民館	8月 4日 30
	妙楽寺公民館	8月 8日 18
和知地区	三ノ宮基幹集落センター	8月10日 20
	質美振興センター	8月22日 37
	市場ふれあいプラザ	8月25日 37
	長瀬公民館	8月29日 45
	仏主すこやかセンター	9月 1日 31
	和知ふれあいセンター	9月 5日 46
	わち農村環境改善センター	9月 7日 22
広野公民館	9月 9日 30	
合計		751

¥ 税・行財政について

問 今後ますます高齢化社会となり税収が減ると思われれますが、自主財源をどのように確保していくのですか。

答 畑川ダムの完成で受け入れ準備が一定整うので、企業誘致や定住促進を進め、税収確保に努めていきたいと考えています。

問 税などの未納者への対応はどのようにされているのですか。また、水道料金未納者に対して、電気会社のような強制措置はできないのですか。

答 催告書の送付や家庭訪問などをはじめ、今年度は税務課に専門員を配属して相談や夜間徴収を行って

います。水道はライフラインなので完全に止めてしまうことに戸惑いがありますが、条例に基づき給水停止も見据えて厳しい態度で臨んでいきます。

問 地方交付税は東日本大震災の影響から厳しくなるのではないですか。

答 減るかもしれませんが、そのときは住民のみなさんと相談して考えます。

問 ふるさと納税はどのように取り組まれているのですか。

答 PRはしていますが、難しい制度なので実績につながりません。昨年は、須知高校の関東ブロック同窓会に出席して説明をしましたので、今

問 高齢者にやさしいまちづくりを町政の一つの柱にされていますが、高齢者がよく利用する京丹波町病院前のJRバス停に、屋根などのある簡易な停留所を設置いただけませんか。

答 方法について研究し、できるだけ雨風がしのげるように考えます。

問 重機で除雪をされると、固まった後に雪の壁となり家からの出入りに支障をきたします。もう少し考えてもらえませんか。

答 配りよいただくよう国道事務所などに頼んでいきます。

問 JR山陰本線の複線化は園部駅までですが、園部―綾部間が複線化すれば通勤時間が短縮され、定住人口増加につながると考えます。町としての取り組み状況を聞かせてください。

答 要望はしていますが、採算が合わない投資は難しい状況のようです。今後も、府や関係市町とともに早期実現に向けて要望活動を行っていきます。

問 町内水道施設整備は進んでいます。水道水の品質は、まずは安全を第一に考えています。いただいたご意見については余裕が出てくれば検討していきます。

答 水道水の品質は、まずは安全を第一に考えています。いただいたご意見については余裕が出てくれば検討していきます。

町営バスの運行について

問 毎年、住民の声を聞いて改善されていますが、高齢者福祉という観点

跡地利用について

後も縁者に出会ってお願いをしていきます。また、簡単に寄附いただけるような町独自のルールづくりも考えていきたいと思います。

問 荒廃した民家が多くありますが、町で管理をしていただけませんか。

答 個人財産の管理はできませんが、空き家バンク制度もあるので相談には応じます。

問 多くの廃校舎がありますが、今後どうされるのですか。

答 地元と相談しながら、活用と撤去の両面で一つずつ解決していきたいと考えています。

水資源・道路・交通について

問 京都縦貫自動車道・丹波綾部道路の曾根地内に計画されている施設について、詳しく聞かせてください。

答 府道からも入れて地元住民も利用できるハイウェイオアシス機能を備えた施設を考えています。国土交通省が設置するパーキングエリアに隣接させて、食事提供や地元産品の販売ができる地域振興施設を整



畑川ダムの建設現場を見学する下山小学校の児童。現場見学会などを通じて広く工事の様子が公開されています。



ケーブルテレビについて

問 ケーブルテレビ(CATV)のメンテナンスは、休日や深夜でも対応できる体制になっていますか。

答 町職員は勤務時間内での対応になりますが、保守管理は外部委託して二十四時間体制をとっています。

問 告知放送によるご不幸のお知らせは前夜に告別式のみ放送されますが、通夜と告別式の両方をお知らせするようにしてもらえませんか。

答 通夜のお知らせを流してほしいという要望もありますが、一方でお悔やみの放送ばかりという声もあります。利便性の向上を基本的に総合的に検討していきます。

問 CATV電話は重宝していますが「有線電話」「CATV電話」「三を付ける電話」など、さまざまな呼び方がされていてわかりにくい状況です。有効利用できるように、統一した名称を示してもらえませんか。

答 名称を決定し、利用について積極的に広報していきます。

問 JRの臨時運休の情報を放送してもらえませんか。

答 JRに対応できると思いますので、JRに



申し入れをします。

問 放送で文字放送のみの時がありませんが、できるだけ音声放送も合わせて流してもらえませんか。

答 対応するように考えます。

問 デジアナ変換でテレビ大阪が映らないのはなぜですか。

答 当初送信を打ち切るといわれていましたが、協議の結果、デジタル送信については許可をいただきまし。しかし、デジアナ変換については独自施策でもあり許可がいただけないので、放映できない

問 空き家情報バンク制度では、農業をすることが条件となるのですか。

答 農業の担い手確保、耕作放棄地の解消などを目的に、産業振興課で担当しています。田舎暮らしの希望者は多くありますが、まずは地域に溶け込んでいただいて地域の担い手の一員となつてもらうことを前提に対応しています。

有害鳥獣対策について

問 新聞で東近江市の例が紹介されていた「ドロップネット」とは、どのようなものですか。

答 広い場所でネットを水平に張り、その下に餌でシカをおびき寄せ、遠隔操作でネットを落下させて一網打尽にする方法です。塩田谷・安井区からの要望に基づき、猟友会の支援を受けて今年度から実験を行つてまいりますので、よい結果が出ることを期待しています。

問 狩猟許可証の期間を隙間なくしてもらえませんか。

答 有害鳥獣捕獲許可期間は、町有害鳥獣対策協議会において決定していますので、意見が反映できるように努力します。

地域医療について

問 サルの被害が多いので数を減らすために駆除班を編成し、猟銃による駆除に取り組んでもらえませんか。

答 有害鳥獣の駆除は猟友会に委託していますが、サルを猟銃で減らすことは非常に難しい状況です。まずは自衛をしてもらう以外ないと考えます。サル対策には追い払いが第一と言われています。区などの要望に応じて京都府と一緒に研修会を開催していますので、それをもとに地域ぐるみで追い払い活動を行つていただきたいと思います。

問 近隣に明治国際医療大学附属病院があります。車の運転ができない高齢者も受診できるように町営巡回バスを運行してもらえませんか。

答 町内には、丹波笠次病院、京丹波町病院、和知診療所がありますので、明治国際医療大学附属病院までの町営巡回バス運行は考えていません。

問 病院を自治体が経営するには一般会計の負担が大きくなると思います。地域医療は大事だと思いが、今後も続けていくのですか。

答 丹波地区には丹波笠次病院があり、近くに明治国際医療大学附属

状況です。

問 「町長と語るつどい」を数か月かけて開催されていますが、各会場での意見や回答などを放映できませんか。

答 番組編成会議があるので提案したいと思います。

産業振興について

問 林業大学誘致の話がありました。手入れが出来ていない山林などを活用するなど、町内の森林関係の施策に対応できるのですか。

答 町内の山を演習林として使うことはあるかと思いますが、山の木を整備するようなものではありません。西日本唯一の林業大学校ですので、全国から若い人たちがやってくることで、地域の起爆剤になることを期待しています。

問 京都府の「里力再生アクションプラン」でバイオマスや小水力発電などの普及がありました。木材の加工利用に力を入れてはどうですか。

答 間伐材をチップやペレットに加工して燃料にする技術を備えた工場が大阪にあります。関西電力はカナダから輸入して火力発電に利用しているのが現実であり、町で木質

病院もあります。瑞穂・和知地区では民営の医療機関がないため、病院事業に関する要望が強くあります。今後、自治体経営の病院事業をどうするかというは、住民が納得されたときに判断するべきものと考えます。



町民の健康と生命を守る町立医療機関(京丹波町病院・和田)

ペレット工場を作っても太刀打ちできない状況です。今年度「木のぬくもり活用推進事業」として、間伐材を燃料とするウッドボイラーを公共施設に設置し、効果などを実験するよう考えています。

問 高齢化が進み、役員の負担も大きくて土地を守ることができません。中山間地域等直接支払制度の協定地から外してもらえませんか。

答 五年の協定期間中は、協定地から外すことはできません。地域のみならず土地を守つていただきたいと思います。

問 不在地主が又貸しをしたり、新規就農者が複数集落で農地を借りているケースがあることから、共同で行う年に数回の草刈り作業などに参加しない場合があります。既存農家と新規就農者との間に摩擦が起きないよう、受益者が義務を負うことを行政からの斡旋時に指導できませんか。

答 複数集落に農地を持つ新規就農者に対しては、関係機関からも作業負担義務について指導いただくよう伝えます。また、共同作業の日程が重なった場合、参加が無理なことは事前にわかるので、前日に作業をしておくなどの対応も必要であると思います。



問 和知診療所においても、午後の診療ができて好評ですが、薬が院外処方になり、処方に時間がかかるなど高齢者にとってサービスが低下しているように思います。どのようにお考えですか。

答 FAXなどを設置して、スムーズに処方が行えるよう保険薬局店に改善を促していきたいと思えます。

保健・福祉について

問 日曜日に住民健診が設定されたことと受診することができました。とても良いことだと思っております。もっとPRをしてはどうですか。

答 住民健診の無料化や検査項目の充実にも取り組んでいますので、受診率を上げるためにもPRしていきます。

問 地域包括ケアシステムとは、具体的にどのような内容ですか。

答 高齢者のみなさんが住み慣れた地域で、安心して生活が営めるよう、医療、介護、保健、福祉の各サービスが切れ目なく提供される包括的なシステムを構築していこうとするものです。府内でも本町が先進的に取り組もうとしており、今後、ネットワーク協議会で具体化していきます。

子育てについて

問 年配者の生きがいとなるように、子どもたちを支援できるような機会はないですか。

答 支援できる家庭でお子さんを預かる「ファミリー・サポート・センター事業」を今年度に予定しており、午

前七時から午後八時まで預かることができます。

問 みずほ保育所は非常勤職員が多い状況ですが、正規の職員を増やして負担を軽減する考えはありませんか。

答 平成二十四年度に採用するよう検討しています。

教育振興について

問 子どもたちの中には弁当を希望している者もいるので、中学校給食を選択性にできませんか。

答 弁当を楽しみにしている生徒もいると思いますが、食育の一環として、平成二十五年度を目途に二斉に給食を実施するため、選択性は考えていません。



問 地元中学校から須知高校への入学が減っていますが、どのように考えられていますか。

答 高校入学の選択肢が広がっており、地元中学校の占める割合は七〇―八〇％程度となっています。町として新たに通学補助制度を設けるとともに、さらに教育の中身の充実や、中学校と高校との連携を密にして、子どもたちが行きたい学校になるよう、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

地域支援について

問 地域活性化には地域住民の熱意が大切ですが、地域だけでは堂々巡りになってしまいます。町からの提案などを含め、地域支援担当が一緒に盛り上げてもらえませんか。

答 地域支援担当は、相談を受ければ一緒に考えて考え、必要なアドバイスなどを行います。担当職員を積極的に活用してください。

消防・防災について

問 避難場所に指定されている公民館の耐震性や水害への対応を考えてもらえませんか。

答 具体的な要望があれば積極的に対応させていただきます。

その他

問 旧丹波町時代に掘削した温泉は、現在どうなっているのですか。

答 当時は期待されていたと思いますが、温度は二十六度しかなく常に沸かさなくてはならないことから、結果的に温泉施設は整備しません。

問 区の中にある組のあり方について、意味や役割など町長の考えを聞かせてください。

答 行政の下請けではないと考えています。組の中で積極的な話をされるのが非常に大切ですし、社会を構成する原点だと考えています。

問 文化施設が少ない状況ですが、どのように考えられていますか。

答 文化ホールなどの必要性は感じますが、予算の関係から少し先になると思います。

問 同一世帯なのに郵便物が別々に届くことがあります。費用的なことも考えて、世帯同封を日常の心構えとするべきではないですか。

答 職員の家族などは手渡すなどし、日ごろから経費削減に努めていますので、郵便物の配布についても世帯同封で対応するよう心がけます。



双葉町を元気付ようと取り組まれたスポーツ少年団のジャガイモ栽培。町全体に支援の輪が広がっています。

問 婚活支援事業が当初予算に計上されていますが、どのような取り組み内容ですか。

答 仲人を復活させたり、出会いの場をつくるなど、婚活支援に真剣に取り組んでいきたいと考えています。

問 婚活支援事業の対象は若い人だけですか。

答 二十歳以上の未婚の方であれば年齢は問いません。

問 双葉町への支援について、これから先どのように考えているのですか。

答 支援の輪が広がってうれしい状況です。町としては、これまでの取り組み内容をまとめて報告し、これからの方向性を示したいと考えています。

問 学校施設は耐震補強が完了しましたが、町民の安心・安全を確保するという観点から、役場や支所も含めた公共施設の耐震調査および点検に取り組む考えはありませんか。

答 取り組みたいという考えはありますが、すぐに役場を建て替えるのは無理な状況であると判断しています。単に役場を建て替えるということではなく、まちづくりという視点からも考えていきます。

問 刈った草を乾燥させて焼却処理したいのですが、野焼きとして扱われて法的に罰せられるのですか。

答 刈った草だけでは燃やしてもらっても結構ですが、燃えにくいからといって他のものを混ぜると問題になります。燃やす場合であっても、風向きや煙の量など近隣への影響に留意し、消防団に出勤してもらうようなことがないよう、自己責任において対応してください。

問 放射線量のモニタリングポストをできるだけ早く設置できませんか。

答 できるだけ早く設置したいと考えていますし、対応について京都府や関西電力に申し入れをしています。

問 防災マップを作成いただいています。今の時代はいつ何が起るかわかりません。例えば、これだけ大雨が降れば避難しなさいという目安はあるのですか。

答 土砂災害についての詳細情報があり、高齢者や災害要支援者名も把握していますので、それ相当の計画を立てています。

問 つどいの冊子を事前に配布されましたが、期間が長くてなくされた方が多くあり、「冊子をご持参ください」と告知放送をされると、出席したくてもしにくい」という声を聞かれています。「冊子のない方は会場で用意しております」と付け加えて放送するか、地域を分けて開催日の一か月前に配布するなどの配りが必要ではないですか。

答 今後気を付けるようにし、できるだけよい方法を検討したいと思っております。



まちづくりへの 提言と アンケート結果

つどいでは、町政への質問や意見だけではなく、幅広い視点でまちづくりなどを見据えた提言、住み良い環境づくりを目指した要望、地域に特化した身近な課題などが活発に議論されました。要望や提言の主なものおよびアンケート集計結果をお知らせします。

なお、持ち帰って検討する旨をお伝えした内容については、個別に回答させていただきます。

要望・提言について

町内に在住してはいますが知らないことが多いです。町のことを多くの人に知ってもらうためにも、あらゆるところで京丹波町をPRしてもらいたい。

児童の安心・安全確保のため、通学時などに防犯ブザーを活用してもらいたい。

「町長と語るつどい」に初めて参加しましたが、町民として自分自身の考え方を話すよい機会になりました。町のことを知るよい機会でもありますので、今後も継続して実施してもらいたい。

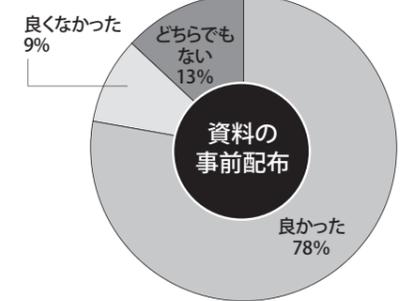
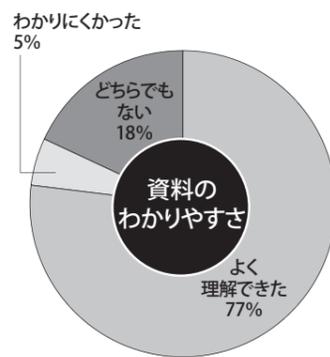
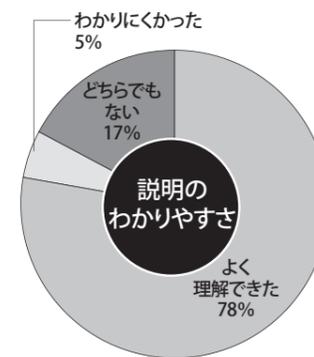
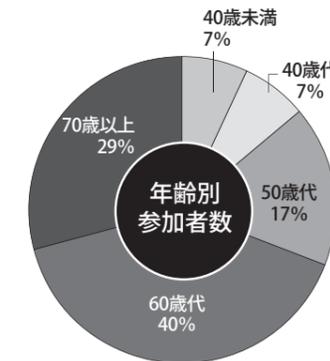
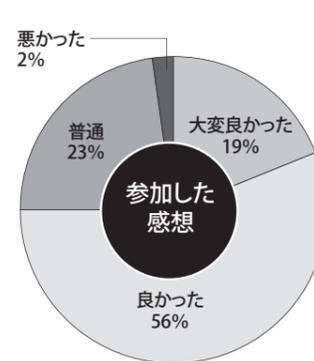
町からの配布物にはカラー刷りのものが多くありますが、経費節減を考え、簡単で分かりやすくまとめた誰でも読めるものにしてもらいたい。

緊急時における避難などの防災情報を、より多くの地域住民に周知できるよう、CATVの文字放送や告知放送を活用してもらいたい。

アンケート集計結果

今後の開催に向けた参考とするために実施したアンケートには、参加者七百五十一人中、五百九十人の方に協力いただきました。お聞きした項目は、「年齢」「感想」「資料や説明のわかりやすさ」などで、集計は次のグラフのとおりです。

なお、自由記入欄に書き込んでいただいた意見などについては、より良い内容で実施できるように検討していきます。



あぜ草刈り機を使って草刈りを体験する留学生 (安井地内)

ホークスベリー市から 4人の留学生が来町 交換留学で深まる 姉妹都市交流の『絆』

国際交流事業の一環として、町国際交流協会(野口久之会長)が毎年実施している「交換留学事業」。今年は9月15日から10月12日までの約1か月間、姉妹都市交流を続けているオーストラリア・ホークスベリー市から4人の留学生が来町し、ホームステイなどで日本文化に親しみながら、さまざまな機会を通じて町民のみなさんと交流を深めました。



お菓子作りを楽しむ留学生 (鎌谷中地内)



和装のいでたちで花を生ける留学生 (長楽寺・八田)



もちつきを楽しむ留学生 (安井地内)

留学生は九月十五日に来日し、翌日には「歓迎会」に出席。歓迎会では、踊りを交えてオーストラリアの歌を披露するなど、和気あいあいとした雰囲気の中でホストファミリーらと交流を深めました。

滞在期間中、留学生はホームステイをして日本の生活様式を体験するとともに、町内の中学校や須知高校の授業に参加し、児童・生徒たちと友情を育みました。

また、九月二十二日に長楽寺で茶道や生け花などを体験したのをはじめ、二十五日には、もえぎグループ(細井百合子代表)の会員と一緒に、お菓子作りをした後、京丹波はたるの里(谷山建夫代表)の会員らに教わりながら草刈りやイモ掘り、もちつきを体験し、夜には夕食会に招かれて地域住民らと楽しいひとときを過ごしました。ほかに、広島県(二十八日・二十九日)や清水寺(十月六日)への研修旅行などにより、留学生たちは広く日本文化を学びました。

十一日の送別会では、ホストファミリーや協会、学校生活で知り合った友人らと滞在期間中の思い出話などに華を咲かせ、翌日にはホストファミリーらに見送られながら京丹波町を後にし、約一か月間におよぶ留学生生活での思い出を胸にホークスベリー市へ帰国しました。

ホストファミリーと留学生にインタビュー

滞在期間中の思い出は...?



送別会で参加者と記念撮影をする留学生



歓迎会で踊りを交えてオーストラリアの歌を披露する留学生



歓迎会で留学生にあいさつをする野口会長(町中央公民館・蒲生)

片山 弘明さんファミリー (小畑)

娘が留学生としてオーストラリアでお世話になったことから、今回ホストファミリーを引き受けました。

エレンが来てくれて、家庭がにぎやかになってうれしかったですし、いつも笑顔で大きな笑い声を聞かせる姿が、とても印象深く残っています。

ただ、英語で会話ができなかったことが心残りとしてありますし、次に会うときには話せるように勉強したいと考えています。ですから、またぜひ、わが家に遊びに来ててください。



エレン・ライアンさん

協会やホストファミリーをはじめ、わたしたちを温かく迎えてくださったみなさん、楽しく素晴らしい日々を過ごさせていただきありがとうございます。京丹波町で過ごした時間は決して忘れません。

宇都宮 弘さんファミリー (中台)



留学生としてオーストラリアでお世話になったので、お礼の気持ちも込めて昨年に引き続き受けました。

サマリアは日本語が話せなかったのが心配でしたが、日を重ねるごとに上達し、コミュニケーションが上手とれるようになったので、家族のような感覚で一緒に過ごすことができました。また、水泳が得意で、プールに行ったときは、周りから注目されるぐらいきれいなフォームで驚きました。

オリンピックを目指していると聞きましたので、一生懸命応援したいと思います。

サマリア・アートさん

みなさんに優しくしていただき、楽しい時間を過ごすことができました。学校生活ではたくさんの友だちができ、忘れられない出来事がいっぱいあります。思い出深く帰国するのがとても寂しいですが、またいつか京丹波町に帰ってきたいと思います。

伴田 兼一さんファミリー (上大久保)

昨年、娘がお世話になって留学させていただいたので、恩返しのためホストファミリーを引き受けました。

食文化の違いから好き嫌いが多くて心配しましたが、作ったものはほとんど食べてくれたので助かりました。また、グレイシーは見てのとおりかわいらしく、性格が良く、気も利くので、滞在期間中は4人目の娘ができたように感じ、とても楽しかったです。

舞妓体験をした時の姿が一番印象に残っており、ホームシックにかかわらず1か月間楽しく過ごしてもらって良かったです。



グレイシー・アプリンさん

日本での生活は夢のようで、時間が経つのがとても早く感じました。留学生活では、素晴らしい体験をし、新しい家族と生涯の友だちを作ることができました。京丹波町のみなさん、たくさんの楽しい思い出をありがとうございました。

蒲生 優さんファミリー (稲次)



できるだけ多くの方を迎えたいとの思いからホストファミリーを引き受けさせていただき、娘の世話になりながら、何とか1か月間を過ごすことができました。

アレックスは、毎晩、家族で会話する時間を楽しみにしていてくれたように思いますし、日本の伝統文化を知ってもらうために、大阪や京都、奈良などいろいろな場所に行ったことが思い出に残っています。

日本での生活をどれだけ楽しんでもらえたかわかりませんが、また出会うことを期待しています。

アレックス・タンステルさん

日本の学校に通ったことや名所を観光したことなど、驚きと感動の日々を過ごすことができました。みなさんとの出会い、そしてこの素晴らしい体験に感謝をし、大切な思い出として絶対に忘れません。また日本に来るときには、流ちょうな日本語で話したいと思います。

『タバコと歯周病の 関係について』

このコーナーは、町立病院診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は和知歯科診療所の坂下敦宏先生。タバコが及ぼす口の中へのリスクと、「8020運動」についてのお話です。

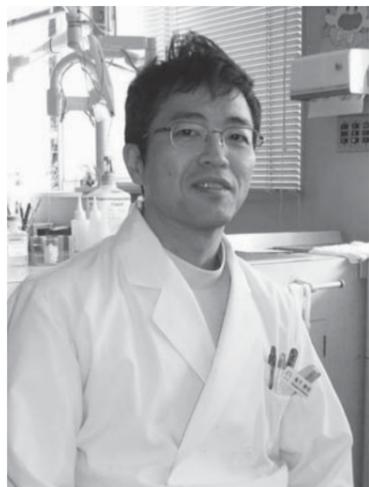
タバコを嗜好品としたのは過去の話です。タバコは
身体に悪いだけでなく、中毒作用があり、身体がむしばまれます。

タバコが及ぼす歯周病への影響

タバコを吸う入り口となる口の中では、タバコの煙による歯肉の血行不良と免疫力の低下が生じ、それが原因で細菌が繁殖することで、歯肉に炎症が起きます。そして、一日に吸うタバコの量が増えるに従い、歯周病の程度も悪化することから、一日に三十一本以上吸う人は非喫煙者と比べて五倍以上のリスクがあります。また、非喫煙者であっても、他人の吸ったタバコの煙を吸わされてしまう「受動喫煙」によって、歯周病のリスクは高まります。

そのほかにも、タバコが及ぼす口の中への影響としては次のことが考えられます。

- むし歯や歯周病になりやすい
- 口臭がする
- 味覚が低下する
- 歯ぐきや歯の表面が着色する
- 口腔がんの発生率が高くなる



坂下 敦宏先生
(和知歯科診療所)

目指そう「8020運動」

「8020運動」は、八十歳になっても自分の歯を二十本以上保つことを目指した運動です。達成することで、「生自分の歯で食べられる喜び、健康で長生きできる楽しい老後が期待できます。」

タバコは歯をダメにする危険因子であり、歯を守る秘訣は「正しい歯の手入れ」と「タバコの害をなくすること」です。このことに気を付けて、日ごろから歯を大切にしましょう。

和知歯科診療所での外来診察は、予約診察を基本としています。予約や相談など気軽に連絡してください。☎84-1154

保存会結成四十周年を記念し、発祥の地「下山」で開催

■DONと来い・丹波八坂公演

丹波八坂太鼓保存会が十月二十三日、保存会結成四十周年記念「第十二回DONと来い・丹波八坂公演」を、下山小学校体育館で開催しました。

今回の公演は、同保存会結成四十周年の節目となることから、丹波八坂太鼓発祥の地であり、初公演を行った思い出の場所である下山小に会場を移し、「不易流行」をテーマに、三部構成で実施。公演が始まると、下山小学校太鼓クラブの六年生十一人が伝統曲「八坂」を響かせてオープニングを飾った後、四十周年を記念して創作された「遊ぶ」を皮切りに、「大太鼓」「山師」「尾長野」の四曲が次々と披露され、会場を一気に盛り上げました。



多くの観客が見守る中、勇壮な太鼓を響かせる保存会のメンバー(下山小学校・下山)

地域活性化を目指した収穫体験イベント

■黒大豆枝豆の収穫祭

和知地区の六集落(篠原・大迫・長瀬・塩谷・上乙見・下乙見)でつくる集落連携組織「上和知中部村おこし委員会」が十月二十一日、大迫地内の遊休農地を活用して栽培した黒大豆枝豆の収穫祭を開催。都市住民ら約六十人が参加しました。同委員会は、都市住民との交流を通じて地域活性化をはじめ、遊休農地の解消や地域コミュニティ強化を目的として、今年度から新たに地域特産である黒大豆の栽培を開始。丹精込めて育てた枝豆が収穫時期を迎えたことから、自主財源確保とファンづくりにつながることを目的に、初の収穫体験イベントとして実施しました。

この日は、はじめに白樫貢会長が



収穫作業を体験する参加者(大迫地内)

「多くの方に来ていただかないと、地域に活力をもたらすことができません。この収穫祭を契機に、これからも末永いおつきあいをお願いします」とあいさつした後、参加者たちはたわわに実った枝豆の中から、地元の農家に教わりながら葉とり作業などを体験しました。

体験活動を通じて「食」への知識を深める

■瑞穂中学校が農業体験

瑞穂中学校が十月十八日、総合的学習の一環として、一年生四十一人を対象に食育をテーマとした農業体験を行いました。

児童たちは、丹波食彩の工房でソーセージづくりを体験したのはじめ、城崎正継さん(妙楽寺)のハウスで京かんざしのは種と収穫、野村諭司さん(保井谷)のほ場で黒大豆の枝豆の収穫や選別作業などを体験。また、地元農家に教わりながら、地元で採れた新鮮な農産物をふんだんに使った料理を調理したり、町内で肉用牛の試験研究に取り組ん

でいる京都大学附属牧場を見学するなど、加工、収穫、調理などさまざまな経験を通じて、食についての知識を深めていきました。

なお、今回は京都府が作成する「都市農村交流推進DVD撮影も兼ねて行われており、編集されたDVDは教育体験・旅の受け入れ推進の映像として活用されます。」



牧場内を見学する生徒(京都大学附属牧場・富田)

和知小児童が京大の総合博物館を見学

■パートナーズスクール事業を通じた継続的な交流活動

九月二十八日、和知小学校の六年生三十九人が京都大学を訪れ、古代生物についての学習や施設見学を行いました。

和知小学校と京都大学、須知高校の三校は、昨年度の京都府パートナーズスクール事業をきっかけに、継続的な取り組みを展開。今回の交流活動は、和知小児童が大学での研究や生活にふれることでキャリア教育に役立てるとともに、博物館などの見学を通じて幅広い知識を養うことをねらいとして実施されました。

この日、児童たちは、京都大学総合博物館の大野照文館長から、三葉虫の特徴や体の仕組み、天敵から



総合博物館を見学する児童(京都大学総合博物館・京都市左京区)

の身の守り方などについて教わった後、大学院生に案内してもらいながら総合博物館と大学校内を見学するなどし、貴重な経験を踏まえて多くのことを学んでいました。

なお、十一月二十四日には、和知小学校と須知高校が交流活動を行うよう計画されています。

たわわに実ったカエルとまゆまろを刈り取り

■「あっぱれたんぼ」稲刈りイベント

田んぼをキャンバスにカエルとまゆまろを描いた「あっぱれたんぼ」の稲刈りイベントが十月十日、丹波自然運動公園付近のほ場で行われ、公募で集まった家族連れや地元曾

根区の住民ら約二百人が参加しました。

稲刈りは、カエルとまゆまろの二班に分かれて実施。同公園職員の指示のもと、参加者たちは、キヌヒカリや神丹穂などの品種が混ざらないように注意しながら鎌を使って、いねいに刈り取っていき、稲木に干

戦没者の冥福を祈り、恒久の平和を願う

■戦没者追悼式

京丹波町戦没者追悼式が十月十九日、和知ふれあいセンターで開催され、遺族ら約三百人が参列しました。

式典では、戦没者に黙とうがさげられた後、寺尾豊爾町長の式辞をはじめ、京都府知事代理の和田健、南丹広域振興局長や京丹波町遺族会代表の谷口勝巳和知遺族会長ら来ひんが追悼の辞を述べ、



追悼式で献花をする寺尾町長(和知ふれあいセンター・本庄)

続いて、参列者一人ひとりが戦没者千七十七柱に献花をして冥福を祈るとともに、平和への誓いを新たにしました。

丹波くりをPR

■京都丹波くりまつり

地域特産物である丹波くりをPRする「平成二十三年京都丹波くりまつり」(同実行委員会主催)が十月一日、丹波マーケスふれあい広場で開催されました。

祭りでは、丹波くりの即売会をはじめ、くりを使った加工品や焼きくりの販売、くり拾い体験など多彩な催しが行われ、訪れた人たちは秋の味覚を満喫して楽しんでいました。

また、同日に「平成二十三年度京都府丹波くり品評会」(京都府特用林産振興連絡会主催)の地域賞



人気が集まった丹波くりの即売会(丹波マーケスふれあい広場・須知)

授与式が綾部市林業センターで行われ、多くの人たちが見守る中、関係者から受賞者に表彰状が手渡されました。受賞者は次のとおり。(町内受賞者のみ、敬称略)

■京都府丹波くり品評会(地域賞) [京丹波町長賞] 澤田久子(橋爪)

慣れ親しんだ旧松山保育所に移転

■のびのび児童クラブ二組

瑞穂地区の児童保育「のびのび児童クラブ二組」が十月三日、山村開発センターみずほから旧松山保育所へ移転しました。



朝子教育長のあいさつを聞く児童たち(旧松山保育所・和田)

これまで同クラブは、山村開発センターみずほの一室を利用して学習や自主活動などを行ってきましたが、利用者の増加により手狭になってきたことから、跡地の有効活用も踏まえて同保育所に移転を決定。幼児を対象とした施設であつたため、利用しやすい環境づくりに向けて、トイレや床、屋根の一部を改修し、開所の運びとなりました。

この日は、はじめに朝子照夫教育長が「広い施設なのでけがをしないように注意するとともに、児童保育指導員さんの言うことをよく聞いて勉強や自主活動に励んでください」とあいさつした後、児童たちは慣れ親しんだ園舎を懐かしみながら勉強や読書に取り組んでいました。

築城当時の姿がわかる曲輪や切岸などを確認

■三ノ宮東城跡発掘調査結果

京都府埋蔵文化財調査研究センターが十月十三日、京都縦貫自動車道・丹波綾部道路の建設工事に伴い、本年四月から三ノ宮東城跡で行ってきた発掘調査の結果を発表しました。

今回の調査では、六箇所の曲輪(施設を設けるための平坦面)、四箇所の礎石建物跡、切岸(曲輪を防御するための急斜面)、堅堀(斜面に掘られた堀)、石積などを確認するとともに、中国製磁器、丹波焼甕



現地説明会で曲輪を見学する参加者(三ノ宮東城跡・三ノ宮)

鎧金具、銭貨、石仏などが出土。十月十六日には、一般の方を対象とした現地説明会が行われ、広く調査結果が公表されました。

和知小学校チームが初参加

■和知地区親善バレーボール大会

地域住民がバレーボールを通じて親ばくを深める「平成二十三年度和知地区親善バレーボール大会」(同実行委員会主催)が十月二十三日に開催され、各集落などで構成された二十五チームが参加しました。

試合は九人制ルールに基づいたリーグ戦で行われ、和知地区内にある四つの体育館で六ゾーンに分かれて実施。今回は教職員で編成した和知小学校チームが初めて参



熱戦を繰り広げる参加者(和知小学校体育館・本庄)

加し、より幅広い交流を深めながら、白熱した試合を展開していました。



稲刈りを楽しむ参加者(曾根地内)

原子力事故への防災対策について協議

■防災会議と住民説明会

町や京都府、住民代表者ら二十人の委員で組織する「京丹波町防災会議」が九月二十六日、町中央公民館で会合を開き、原子力防災対策や住民避難計画(案)について協議しました。

福島第一原発の事故を受け、京都府は原子力発電所防災対策暫定計画を策定し、防災対策を重点的に実施すべき地域の範囲(E P Z)を従来の十キロから二十キロに拡大。これに伴い、本町では仏主地域(山林のみ居住者なし)が高浜原子力発電所のE P Zに含まれたこと

から、町地域防災計画に原子力発電所防災対策暫定計画を新たに盛り込み、今後の原子力防災対策を的確に推進していくため、防災会議が開かれました。

会議では、担当職員から町の原子力防災対策の具体的な取り組み予定や、仏主地域を対象にした住民避難計画(案)などを説明し、多くの意見を聞くために住民説明会を開催することで確認。十月十七日には、地域住民ら約百人が参加する中、和知ふれあいセンターで住民説明会を開催し、専門家による放射線の基礎知識の説明をはじめ、京都府防災対策や関西電力の取り組みにつ



防災会議であいさつをする会長の寺尾豊爾町長(町中央公民館・蒲生)

ポスターで伝える交通安全の大切さ

■交通安全啓発ポスターコンクール

このほど、町内の小中学生を対象とした「交通安全啓発ポスターコンクール」(南丹船井交通安全協会京丹波支部主催)が行われ、応募作品百八十五点の中から、特選三点、優秀賞六



作品展を見つめる人たち(道の駅「和」道路情報センター・坂原)

点、佳作十六点、優秀賞六点が選ばれました。

同コンクールは、ポスター作りを通じて子どもたちの交通安全意識を高めるとともに、作品を展示することで、交通安全思想の普及と浸透を図ることを目的に毎年実施

十月一日には、山村開発センターみずほで表彰式が行われ、上田次雄支部長らが入賞者に表彰状を手渡しました。
また、作品展が、京丹波町病院(十月十二日―十八日)、道の駅「和」道路情報センター(十月二十

一日―二十七日)、町中央公民館(十一月一日―七日)の三箇所で行われ、訪れた多くの人たちに交通安全の大切さを伝えていました。
なお、入賞者は次のみなさん。
(特選のみ、敬称略)
京丹波町長賞
村山未来(蒲生野中・二年)
南丹警察署長賞
竹口菜々瀬(丹波ひかり小・五年)
南丹船井交通安全協会会長賞
西村康介(瑞穂小・二年)

東日本大震災を教訓に消防活動の充実を目指す

■丹波地方消防連絡協議会

四市一町(綾部市、福知山市、亀岡市、南丹市、京丹波町)の消防団などで組織する「丹波地方消防連絡協議会」(会長・梅原好範京丹波町消防団長)が十月十五日、道の駅「和」道路情報センターで研修会を開催し、幹部団員ら約八十人が出席しました。

研修会は、東日本大震災における防災活動の経験を共有し、その教訓を今後に生かすとともに、原子力防災に関する基礎知識と災害時対応を学び、消防活動の充実と向上に役立てることを目的に実施。研修会では、京都中部広域消防組合から第二次緊急援助隊の隊長として宮城県南三陸町に派遣された水主純

史消防司令補が、行方不明者の調査や捜索活動での体験談を交えて大規模災害時における消防活動のあり方などを話しました。
また、京都府原子力防災専門委員の三島嘉一郎(京都大学名誉教授)による「原子力防災について」と題した講演も行われ、出席者は東日本大震災を教訓に防災意識の向上に努めていきました。



開会あいさつをする梅原会長(道の駅「和」道路情報センター・坂原)

都市と農村の交流を深めるボランティア活動

■快汗!猫の手援農隊

安井区と塩田谷区の有志で組織する農事組合(法人・京丹波ほたるの里(谷山建夫代表)が十月十五日、「快汗!猫の手援農隊」(社団法人全国農協観光協会主催)の支援を受けて、最盛期を迎えた黒大豆の枝豆の出荷作業を行いました。

猫の手援農隊は、都市部の人々がボランティアで農作業を手伝うことで、都市と農村の交流を深めようと、会員を募って全国的な活動を展開しており、京都府では初の実施。今回は二十人の会員が参加し、地元住民と一緒に枝豆の収穫や葉とり作業などで汗を流しました。

また、作業終了後には、地元住民と意見交換をしながら歓談し、継続した取り組みに向けて交流と親ばくを深めていきました。



葉とり作業を行う援農隊と地元住民(安井区内)

■ご寄附ありがとうございました
ふるさと納税制度により、茨城県桜川市在住の村井泰さんから「安心・安全なまちづくり」に役立ててください」と、五万円の寄附をいただきました。ありがとうございました。

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,467,091円
復興支援募金	4,392,853円

*平成23年10月31日現在

季節の花でいっぱい魅力ある地域を目指して

■北部振興会がシバザクラの苗を植栽

北部振興会(江本正昭会長)が十月十六日、地域の玄関口をきれいな花で彩ろうと、シバザクラの苗二百五十株を植えました。

チームを設け、積極的に地域活性化に向けた活動を展開。今回の取り組みは、「花のある田舎づくり」プロジェクトチームが話し合いと地域内散策を重ね、春にきれいな花を咲かせるシバザクラを玄関口である下栗野地区内に植栽することを決定し、広く会員に参加を呼びかけて行われました。



植え付け作業を行う参加者(下栗野地区)

交流と親ばくを深めるスポーツイベント

■身体障害者体育大会

十月十三日、第六回京丹波町身体障害者体育大会(町身体障害者福祉会主催)がグリーンランドみずほで行われ、会員ら約六十人が参加しました。

同大会は、障害者がスポーツを通じて健康および体力の保持増進を図り、自立と社会参加を目指すことを目的に、グラウンドゴルフ、輪投げ、フライングディスクの三種目を取り入れて実施。開会式では、一谷静夫会長が大会を通じて交流と親ばくを深めていってくださいと、体力づくりにつながるようがんばってくださいとあいさつした後、参加者たちはエントリーした種目に分かれて競技を楽しみ、空き時間や昼食時には和気あいあいとした雰囲気の中で歓談するなど、スポーツを通じて交流の輪を広げていきました。



ホールポストめがけてボールを打つ参加者(グリーンランドみずほ・大朴)

わたしたちの町

人口	16,482(±0)
男	7,769(-3)
女	8,713(+3)
世帯数	6,466(+5)
11月1日現在()は前月比	

まちの元気人

平成二十三年春の黄綬褒章を受章

津田 つだ たけじ 武治さん (79歳)

本庄

農業のあるべき姿は「適地適産」。

黒大豆は地域の気候風土が生み出した宝。



「実績もありませんでしたし、受賞できるとも思っていませんでしたので、第一報を聞いたときはびっくりしました」と話すのは、今春に黄綬褒章を受章した津田武治さん。

津田さんは、農協で三十八年間勤めた後、平成三年二月から平成七年二月までの四年間、和知町議会議員として町の発展に貢献するとともに、平成六年三月からは和知町農業協同組合代表理事組合長として活躍。ほかにも、京都南丹農業協同組合理事、京都農業協同組合理事、(財)和知ふるさと振興センターの理事や理事長を歴任するなど、とりわけ農業と特産物の振興に力を注がれました。

これまで津田さんは、農家の立場から米の生産調整に伴う休耕田の荒廃を憂い、古くから自給目的で生産されてきた黒大豆のブランド化に向け、集落営農と黒大豆生産を結び付けた産地形成に尽力。組合長として黒大豆のブランド化に努めた経験から、「農業のあるべき姿は『適地適産』であり、地域の気候と風土の中で先人から受け継がれてきた技術を生かし、他の地域がまねできない農産物を作ることが大切だと考え、畦豆としてコストをかけずに自然の恵みの中で育てられてきた黒大豆に着目し、地域をあげて一生懸命取り組んだことで、ブランド化につなげることができました」と、津田さんは先人や

地域のみなさんへの感謝の気持ちを交えて話されました。

近年、枝豆として出荷される農家が増えている現状を受け、「新たな特産品として売り出すのは良いことですが、先人が苦勞して守ってこられたブランド名があるからこそ、枝豆に付加価値がついていることを忘れないでほしいです。ブランドとしての品質確保と収量を保つためには、一定の区分けをして守っていくことが大切です」と津田さん。また、「苦勞豆」と言われるほど手間暇はかかりますが、粉ふきの黒大豆はこの地域の気候風土が生み出した宝です。新たな品種の開発や作業の効率化なども考えながら、地域一丸となって守っていくことで次世代に受け継いでいきたい」と熱く語られました。

編集後記

「秋祭り」取材させていただきましたが、力強く荒々しい曳山、和気あいあいとした雰囲気の野菜みこし、独特のリズムと踊りで楽しませる田楽など、それぞれに言葉では伝えることができない魅力と素晴らしさがあり、とても貴重な体験をすることができました。今回は組み写真で表紙に掲載しましたので、その場の雰囲気を少しでも味わってもらえたらうれしく思います。また、みなさんも、来年はぜひ地域の祭りを見物してみてください。(K)